

キャンプ砂防 2006

我が国は、急峻な地形、脆弱な地質等により土砂災害を受けやすい自然条件下にあります。さらに、近年中山間地域では、過疎化、高齢化に伴い森林管理の衰退や耕作放棄地の増加などにより荒廃が進んでおり、土砂災害の発生等大きな社会問題となっております。一方、このような中山間地域においては、活力ある地域づくりのために各地域の個性を活かした様々な取り組みがなされています。

このような中山間地域の現状を実際に体験できる場を全国の学生に提供し、地域の抱える問題点、活性化の支援のあり方、防災対策のあり方を学び、中山間地域における砂防の意義・役割を考えることを目的として、平成8年度より「キャンプ砂防」が実施されています。

平成18年度は7月31日から9月22日まで、全国32箇所の直轄砂防関係事務所を中心に「キャンプ砂防」が実施され、全国の大学生、大学院生が135名参加しました。

モノを作る。

農業体験や林業体験または機織りや木工加工など、地場産業や地域文化の体験を通じて中山間地域の現状を学びます。



山の鼓動を感じる。

崩壊地を歩き、植生を知り、川の流を感じ、自然と人々との関わりを実体験することによってそこに住む人々の生活を知ります。また、村の古老の災害体験談を通じて土砂災害の危険性を学びます。



まちづくりを考える。

商工会議所、青年会議所等の関係者の講話や観光業体験、地域イベント等に参加し、まちおこし、むらおこしについて考えます。



土砂災害にふれる。

過去に起こった災害現場視察や砂防工事の実習を行い、日頃机上でしか学べない現場作業などを行います。



空いた時間での技術官との対話は大変有益だった。体験談や砂防をとりまく環境に対する意見など、生の声が聞けたからである。また、他大学の学生と話し合う機会に恵まれたことも、考え方や視点の違いなどを再認識させてくれ、良い刺激になった。(信州大学農学部・男)

ホームステイという形で滞在することで、言葉の違いや食文化、伝統工芸など、地域の文化、生活について学んだ。他の地域を知ることによって自分の住む地域にも関心を持てるようになったことは、大きな収穫だと思う。そういう観点からも、ホームステイという試みは素晴らしいと思った。(岩手大学農学部・女)

● ● キャンプ砂防を終えて～参加学生の声～ ● ●

現場に行って知ったのは「情報だけでは何もできない」ということでした。ダム造りには反対意見だったのですが、崩壊や土砂流出の状況を見て必要なものかと思えたことが、私の中でいちばん大きな変化です。(静岡大学農学部・女)

自然を相手にし、何かを行うことの難しさ、人と人との協力で物が完成する素晴らしさ、自分が汗水流してやったことが人々に活用されている満足など良くわかりました。また、多くの人の安全を確保するために、自然という未知の物に挑み続けている人たちがいるということがわかりました。(日本大学理工学部・男)

キャンプ砂防に関する問い合わせ先：キャンプ砂防運営委員会

〒100-8918 東京都千代田区霞ヶ関 2-1-3 03-5253-8468 (直通) 03-5253-1610 (FAX)